令和５年度　第３回三鷹市スポーツ推進審議会　会議要旨

<table>
<tr><td>開催日</td><td>令和５年10月27日（金曜日）</td><td>時間</td><td colspan="2">15：30～17：00</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>三鷹市公会堂さんさん館３階　第１・２会議室
（オンライン併用）</td><td colspan="2">傍聴人数</td><td>０人</td></tr>
<tr><td>出席者</td><td colspan="4">助友委員、寺田委員、吉田委員、國澤委員、苔口委員、髙栁委員、安中委員、屋敷委員、細川委員、小林委員、相原委員、川瀬委員、岸川委員</td></tr>
<tr><td>欠席者</td><td colspan="4">鈴木委員</td></tr>
<tr><td>行　政</td><td colspan="4">大朝スポーツと文化部長、齊藤スポーツと文化部調整担当部長、二浦スポーツ推進課長、福田スポーツ推進課主査</td></tr>
<tr><td>内　容</td><td colspan="4">１　開会あいさつ（助友会長）

２　開会（事務局）
(1) 委員出席状況について
委員の出席状況は、委員定数14人のうち13人の出席により、委員の過半数が出席し、定足数に達していることから、本日のスポーツ推進審議会は有効に成立している。
(2) 傍聴希望について
市民会議、審議会等の傍聴は、「三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき、原則として公開している。本日は、現時点で傍聴の希望はないが、希望があった場合、条例に基づき入場いただく。
(3) 会議録の作成と公開について
三鷹市の市民会議、審議会等では、会議録を要録として作成し、公開している。会議の内容を録音し、会議録の原案を出席委員に確認のうえ、市のホームページと総務部相談・情報課にて公開を行う。

３　議題
(1) 令和４年度決算概要について
実施状況等について以下のとおり報告した。
ア　中学校における夜間照明設備ＬＥＤ化工事の実施
老朽化が進んでいる中学校の夜間照明について、第二中学校の校庭及び第六中学校のテニスコートの一部のＬＥＤ化工事を実施し、省エネ等によるランニングコストの削減及び施設使用環境の向上を図った。
イ　東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等のレガシー事業の実施
「東京2020大会等に向けた三鷹地域連携会議」からの提言等を踏まえて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等のレガシーを受け継ぐための事業を実施した。
ウ　総合スポーツセンターの円滑な管理運営
指定管理者である公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団を中心に、新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、多種目のスポーツ教室事業、健康・体力相談事業などを実施するとともに、体育協会や地域スポーツクラブと連携して運動教室を開催するなど、運動習慣の定着を見据えた事業を推進した。</td></tr>
</table>

内　容	エ　大沢野川グラウンドの復旧工事と利用再開 東京都の野川大沢調節池規模拡大工事のため利用を停止していた大沢野川グラウンドについて、令和５年５月の利用再開に向けて、令和４年７月から復旧工事に着手し、令和５年３月に完了した。また、利用再開に当たっては、新川テニスコートや大沢総合グラウンドなども含めた一体的な管理運営を図るため、令和５年２月から公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団が指定管理者として、施設予約の受付や施設開設の周知等の準備業務を行った。 (2) 令和５年度の主な事業の進捗状況について 以下の事業について進捗状況を説明した。 ア　中学校における夜間照明設備ＬＥＤ化工事の実施 第六中学校：校庭（実施中）、テニスコート（８月） イ　東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会等のレガシー事業の実施 トライアスロン観戦（５月 13 日）、車いすバスケットボール体験（７月 30 日）、ラグビーW杯日本×チリ戦市民交流事業（９月 10 日）、トライアスロン体験会（10 月８日）など ウ　心と体の健康都市づくりの推進 「タッタカくん！ウオーク＆ラン」アプリを活用したウオーキング、ランニングの促進、運動に苦手意識がある児童向けに身体活動の楽しさを感じてもらうための運動教室の開催（８月３日）など エ　大沢総合グラウンドの計画的な改修工事 テニスコートの人工芝張替工事（９月）など オ　大沢野川グラウンドの利用再開に向けた取組 利用再開日 テニスコート、サッカー・ラグビー場　　令和５年４月１日 野球場　　令和５年８月１日 カ　井口グラウンド（仮称）等の整備に向けた設計 令和７年度の使用開始に向け、一時避難場所・グラウンド、東西通路などを設計（実施中） 相原委員：年間通して今も様々なイベント等が行われてると思うが、現時点での「タッタカくんウオーク＆ラン」アプリ（以下「タッタカくんアプリ」）の普及率や稼働率などのデータはどのようになっているか。また、今年度のアプリ改修でタッタカポイントが地域ポイントに変換されるということだが、今後の展望として、ポイント交換の他に何か具体的に実装される機能があれば教えてほしい。 二浦課長：実際の登録者数は９月 27 日時点で 1,949 人となっている。内訳は、男性が 838 人、女性が 1,032 人、答えのない方が 79 人となっている。割合にすると男性が 43%、女性が 53%、その他４％ という状況となっている。年代別については、40 代の方が 528 人で 27.1% 、２番目に多いのは 50 代の方が 437 人で 22.4%、次に 60 代の方が 295 人で 15.1%、30 代の方が 281 人で 14.4%、70 代の方が 123 人で 6.3%などとなっている。この数字を見る

内　容	と、意外に40代50代の方が登録してくれていると感じている。 　地域ポイントとの連携については 、令和６年１月から開始する予定となっている。また、タッタカくんアプリのスタンプラリーイベントの際は、達成者に景品をプレゼントしているほか、新規登録者を増やすために、イベントの際などは周知用の看板を設置するなどして PR している。今後は3,000人、4,000人の登録者を目指して様々な機会を捉えて周知するとともに、アプリ自体が魅力あるコンテンツになるような仕掛けづくりに取り組んでいきたい。 相原委員：アプリを継続して使い続けてもらうというのは、非常に難しいことだと感じている。長く使ってもらうための仕掛けが大切なので、もう少しスピード感を持って取り組んでほしい。20・30代の働き盛りの方も興味を持ってもらえるようなことを１つやってみるのも良いのではないか。今後の展望としては、歩数や距離だけでなく運動強度の部分についても仕掛けがあると面白いと思うので、例えば歩行速度など活動量を反映したポイント付与なども考えておくとよい。 川瀬委員：私自身、ラグビーW杯の日本×チリ戦市民交流事業に参加した。参加者のアンケートが行われたかと思うが、何か事業評価できる指標を用いて進捗状況を説明してもらえると結果がどうだったのか分かりやすいと思う。なお、市民交流事業に参加したチリ側はどのような反応だったか。また、ラグビーW杯は終わったが新たな事業展開は考えているか。 二浦課長：集計したアンケート結果については、今後の事業の基礎資料として次回以降の事業に活用し、改善に努めていきたい。また、来年度はフランスでオリンピック・パラリンピックがあるので、まだ具体的な内容は決まっていないがホストタウンであるチリとの交流を検討していきたい。今回、ラグビーW杯の日本×チリ戦市民交流事業に参加したチリ側のアンケートは集計していないが、オンラインでの雰囲気を見る限りでは、楽しんでいただけたのではないかと感じている。 助友会長：事業が評価されたエビデンス、根拠がどのようなものであるかについては、この審議会の場でも共有してもらえると色々と議論が弾んでいくと感じている。 安中委員：井口特設グラウンドの更新工事について、進捗状況はどのようになっているのか。また、市民説明会が８月にあったとのことだが、そこではどのような意見が出たのか教えてほしい。また、タッタカくんアプリを使用しているが、車いすの移動でも反映できるようにしてほしい。 二浦課長：井口特設グラウンドの更新工事は、まちづくり推進課と連携しながら設計に取り組んでいるところである。８月の説明会については、市長も出席していたということもあり、市長に対して強い意見を言う方もいらっしゃったが、グラウンドのことや防災拠点、病院誘致などについて早く進めてほしいという意見もあった。更新後、グラウンドは現状の半分になるので、代替施設等については引き続き検討していく。 大朝部長：以前、自転車に乗っているときに誤ってタッタカくんアプリをオンにしてしまったら、普通に計測されていたことがあった。タッタカくんアプリ

内　容	はGPSで計測しているので、恐らく車いすであっても計測されると認識している。今後、タッタカくんポイントと地域ポイントの交換ができるようになるので、ポイント欲しさにバイクや自動車を使って不正にポイントを取得できないような仕組みが課題である感じている。 屋敷委員：タッタカくんアプリについて、私も車椅子の方のようなスピードが遅い場合の検知がどのようになっているか気になっていたので、確認できてよかった。他のアプリでは歩くのが遅い場合、歩行とみなしてもらえないこともあるようなので、色々な方がより実用的な使い方ができるように、実証も踏まえて対応していってほしい。 髙柳委員：運動が苦手な子どもへの教室開催について、参加人数とどのような運動を行ったかについて教えてほしい。また、運動がなぜ苦手なのかその理由も子どもたちから聞けていたら教えてほしい。 二浦課長：定員30人に対して35名の申し込みがあったが、当日は欠席等もあり28名の参加となった。参加資格は小学校で実施された新体力テストの結果がＤＥの子どもに限定し、走る・飛ぶ・投げることが苦手な子どもに対して４つのグループに分けてプログラムを組み、大学生がマンツーマンでサポートしながら実施した。非常に好評の内容であったが、頻繁にできる事業でもないので、今年度のように夏休みの１日を利用して行うのが良いのではと考えている。 吉田委員：中学校のグラウンド照明はＬＥＤ化が進んでいるが、部活動自体が少なくなっており、外部指導者を招聘して何とか維持していこうという話も伺ったことがある。何かその件で進捗等があれば教えていただきたい。 二浦課長:部活の地域移行については教育委員会が事務局となって取り組んでおり、一昨年度から関係者で会議を重ねているところである。今年度からは、第一中学校から第七中学校までの部活動の顧問の先生にも参加いただき、検討会を実施している。指導者の確保や費用や財源をどうするのかなどの課題があると認識している。 吉田委員：タッタカくんアプリのダウンロードを促進していく中で、現状は体育館などでWi-Fi環境が十分でないような気がしているが、設備を拡充していく予定などはあるのか。 大朝部長：スポーツと文化部が所管している元気創造プラザなどは、他の公共施設と比較しても早期に公衆Wi-Fiを導入した施設となっている。基本的には災害時にも使えるという位置付けのフリーWi-Fiとして、1時間に１回は切断されるという形式になっている。ただ、コロナ禍を経て今ではフリーWi-Fiが市民の方にとってより身近なもの、インフラとしても必要なものになってきていると認識しているので、Wi-Fi環境の改善・強化については検討していきたい。 苔口委員：トップアスリートのバレーボール教室について、来年度はどのような形で事業を進めていくか教えてほしい。武蔵野市では、三鷹市のように１か所に参加者を集めるのではなく、在住のオリンピアンが各小中学校を回っているとのことなので、同様に行うことはできないのか確認したい。 二浦課長：各小学校を回りながら指導する方法は、普及啓発の観点から非常に効果

内　容	的な方法だと感じているが、実際に指導する講師の方の都合もあったりするので、その辺は講師の方と相談しながら来年度の事業を展開していきたいと考えている。 助友会長：武蔵野市の当該事業は、東京都のオリパラ教育の一環で教育委員会が手配して実施しているようなので、そういった意味では三鷹市でも他の部署と連携しながらスポーツ推進を行えたらと感じている。 細川委員：車いすバスケットボールなど障がい者スポーツ関連事業は、三鷹市内だけを対象としているのか。また、他の市では近隣の自治体と共同で障がい者スポーツの振興を図っているところもあるが、三鷹市でも周辺の自治体と連携する予定はあるか。 二浦課長：基本的には市内の方を対象として行っているが、他の自治体との連携については広がりという部分もあるので、そのような形でもできるように検討していきたい。 細川委員：市単独の守備範囲だと障がい者団体自身も取り組むのが難しいところもあるかと思うので、周辺の地域として何か取り組みを始めるともう少し活性化すると思う。 國澤委員：我々の団体でボッチャ出前教室を行っているが、保育園からの依頼が以前は10園程度だったが、今年度は17園と増えた。子どもたちがボッチャというスポーツを知るきっかけになるので、継続して実施していきたい。また、今年度は大沢総合グラウンドテニスコートの1・2番コートが綺麗に整備されたが、他のコートの整備はどのような予定になっているか。 二浦課長：大沢総合グラウンドに限らず施設全般の計画的な改修工事に取り組んでいるところである。大沢総合グラウンドテニスコートについては、再来年度以降に他のコートの改修を行う計画を立てている。 小林委員：子ども運動チャレンジ教室については、企画の段階から確認していた。運動が苦手な子どもがどの程度集まるのか不安はあったが、30人弱集まったということで良かったと思う。来年度以降も継続して実施してもらえると、市内にも浸透していくので期待している。 寺田委員：スポーツフェスティバルに家族で参加したが、昨年度に比べて企画数が増えたにもかかわらずあまり並ばずに済んで良かった。参加人数は前年度比較で減ったのか増えたのか。 二浦課長：延べ人数だが、参加者は20,041人で前年度の14,282人に比べて大幅に増えた。コロナ前は23,000人という実績もあったので、以前に戻りつつある状況となっている。 寺田委員：オペレーションが昨年度に比べて改善され、非常にスムーズに色々な場所に行けるようになった。その場でそれほど並ばなくても、様々なスポーツを大人も子どもも楽しめる企画になっていたと感じた。ただ、ドロンパふわふわの空気が抜けて急に萎んでしまうというトラブルがあったので、子ども達の安全管理を第一に考えて、スタッフにはトラブル対応のシュミレーションを事前に行っていただきたい。 助友会長：本日の審議会では大きく４つの視点があったと思う。1 つ目は、事業の評価をする際のエビデンスを是非共有してほしいという視点。２つ目は、

内　容	安全管理や施設管理を含め、色々な方のお話をお伺いしながら最適化していこうという視点。それから３つ目は、スポーツテストの判定結果を踏まえて子ども運動チャレンジ教室での参加対象者を決めるなど、事業のターゲットを絞るという視点。最後に、事業を継続していくという視点も非常に重要だと感じた。 ４　報告（事業予定） 11 月 1 日（水）　体育施設利用者懇談会 11 月 12 日（日）　第 204 回市民歩こう会 11 月 16 日（木）　全国スポーツ推進委員研究協議会青森大会 ～17 日（金） ５　閉会あいさつ（寺田副会長）